

第 1 節 豊能二次医療圏

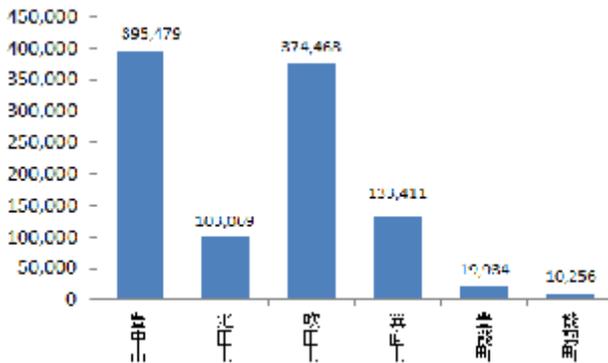
第 1 項 豊能二次医療圏内の医療体制の現状と課題

1. 地域の概況

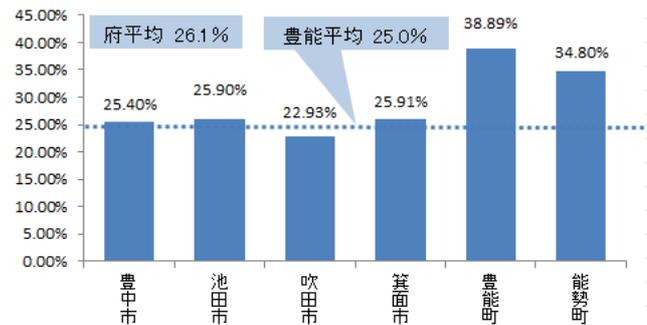
(1) 人口等の状況

○豊能二次医療圏は、4市2町から構成されており、総人口は 1,036,617 人となっています。
また、高齢化率が一番高いのは豊能町（38.9%）であり、一番低いのは吹田市（22.9%）となっています。

図● 市町村別人口(人)(平成 27 年)



図● 市町村別高齢化率(%)(平成 27 年)



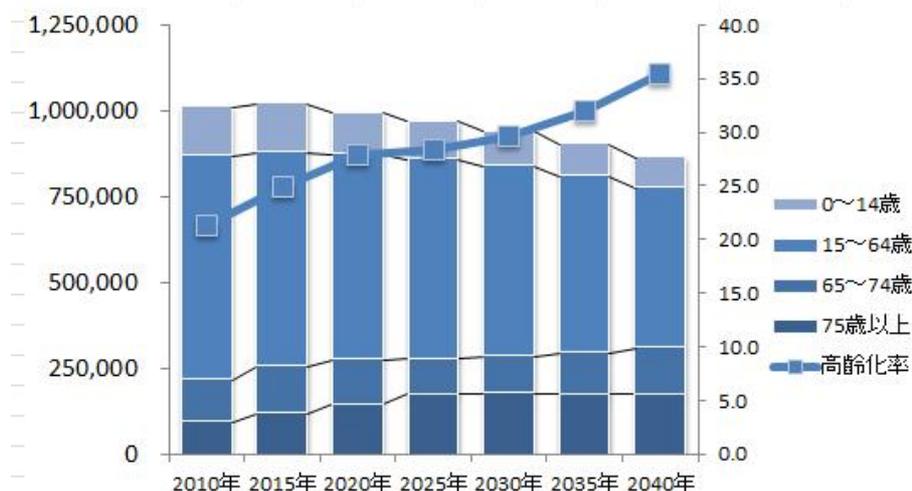
出典 総務省「国勢調査」

(2) 将来人口推計

○人口は 2015 年をピークに減少傾向であると推計されています。

○高齢化率は 2010 年の 21.3%から 2040 年には 35.4%に増加すると推計されています。

図● 将来人口(人)と高齢化率(%)の推計



出典 2010年・2015年：総務省「国勢調査」・2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(3) 医療施設等の状況

○「主な医療施設の状況」は表●、「診療報酬における機能に応じた病床の分類と介護施設等の状況」は図●、「診療所の状況」は図●のとおりです。

表● 主な医療施設の状況

所在地	病院名	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院	
1	豊中市	関西メディカル病院		○												
2		さわ病院		○												
3		市立豊中病院		○		○		□				○	○			
4		刀根山病院						○						○	○	
5	池田市	市立池田病院		○		○		○								
6	吹田市	大阪市立弘済院附属病院				○										
7		医療法人沖繩徳洲会 医療法人沖繩徳洲会吹田徳洲会病院					○									
8		大阪府済生会千里病院		○		○		○	○	○						
9		国立循環器病研究センター	○									○				
10		市立吹田市民病院				○		○								
11		大阪大学医学部附属病院	○					□	○	○		□			○	
12		大阪大学歯学部附属病院				○										
13	大阪府済生会吹田病院		○		○		○				○					
14	箕面市	箕面市立病院		○		○		○								
合計			2	5	2	8	0	2	8	2	2	0	4	1	1	2

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。

※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。



2. 疾病・事業別の医療体制と受療状況

(主な現状と課題)

◆

◆

(1) 医療体制

【がん】

○がん治療を行う病院（診療所）のうち、5大がん治療を行う病院（診療所）は、手術可能な病院が15（0）施設、化学療法可能な病院が18（15）施設、放射線療法可能な病院が7（0）施設あります。

【脳卒中等の脳血管疾患】

○脳卒中の急性期治療を行う病院のうち、脳動脈瘤根治術可能な病院が6施設、脳血管内手術可能な病院が7施設、t-PA治療可能な病院が9施設あります。

【心筋梗塞等の心血管疾患】

○心血管疾患の急性期治療を行う病院のうち、経皮的冠動脈形成術可能な病院が9施設、経皮的冠動脈ステント留置術可能な病院が10施設、冠動脈バイパス術可能な病院が4施設あります。

【糖尿病】

○糖尿病の治療を行う病院（診療所）のうち、インスリン療法可能な病院が33（183）施設、また、合併症治療については、網膜光凝固術（網膜剥離手術）可能な病院が10（32）施設、血液透析が可能な病院が16（12）施設あります。

【精神疾患】

○（都道府県拠点病院や地域拠点病院の状況等について記載予定）

【救急医療】

○初期救急医療機関は、医科 6 施設、歯科 6 施設あります。救急告示医療機関は、二次救急告示医療機関 24 施設、三次救急告示医療機関 2 施設（うち 1 施設は二次・三次告示医療機関）あります。

【災害医療】

○地域災害拠点病院として 2 施設が指定されています。

【周産期医療】

○分娩を取り扱っている施設は、病院 9 施設、診療所 8 施設、助産所 3 施設あります。総合周産期母子医療センターとして 1 施設指定、地域周産期母子医療センターとして 3 施設認定しています。

【小児医療】

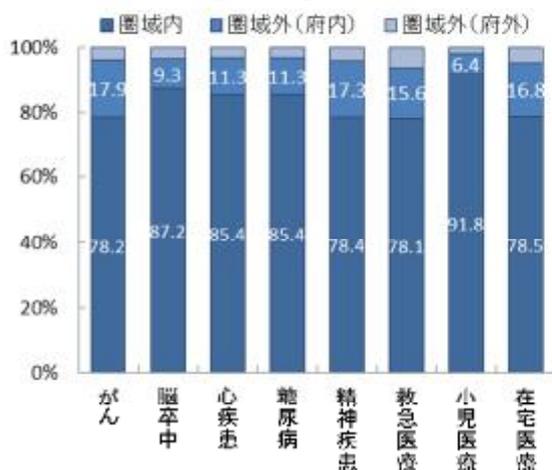
○小児科病床を有する病院が 6 施設あります。小児初期救急医療機関は 5 施設、二次救急医療機関は 5 施設あります。

(2) 患者の受療状況

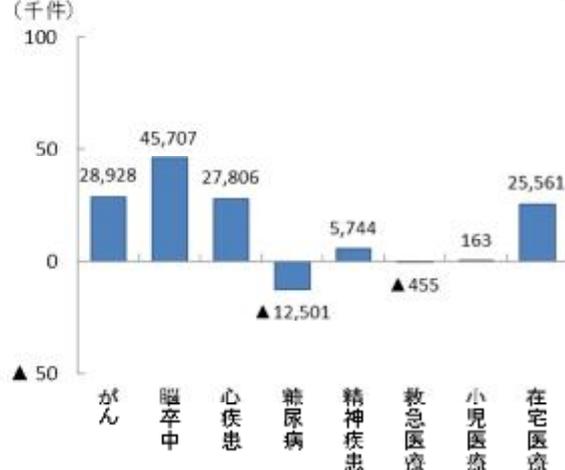
【外来患者の流出入の状況(2014年度 国保・後期高齢者レセプト)】

○豊能二次医療圏において、圏域外への患者流出割合は10%から20%程度となっており、圏域内の自己完結率は高くなっていますが、糖尿病と救急医療では、流出超過となっています。

図● 外来患者の流出(割合)



図● 圏域における外来患者の「流入—流出」(件数)

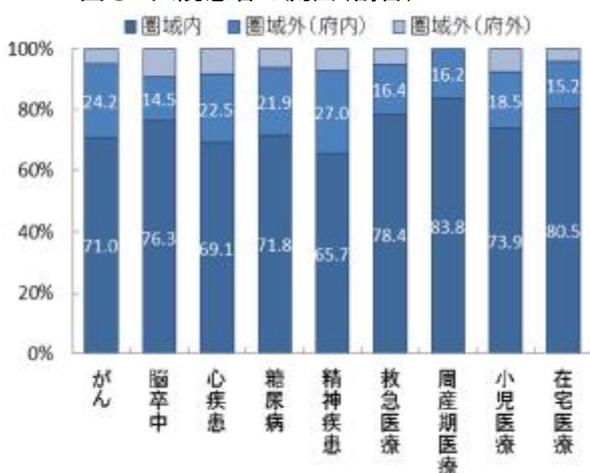


出典 厚生労働省「データブック Disk1」

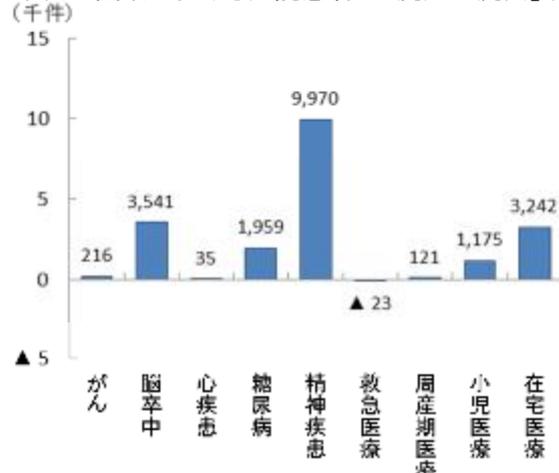
【入院患者の流出入の状況(2014年度 国保・後期高齢者レセプト)】

○豊能二次医療圏において、圏域外への患者流出割合は15%から30%程度となっており、圏域内の自己完結率は高くなっていますが、救急医療では、流出超過となっています。

図● 入院患者の流出(割合)



図● 圏域における入院患者の「流入—流出」(件数)



出典 厚生労働省「データブック Disk1」

3. 地域医療構想（将来のあるべき病床機能）

（主な現状と課題）

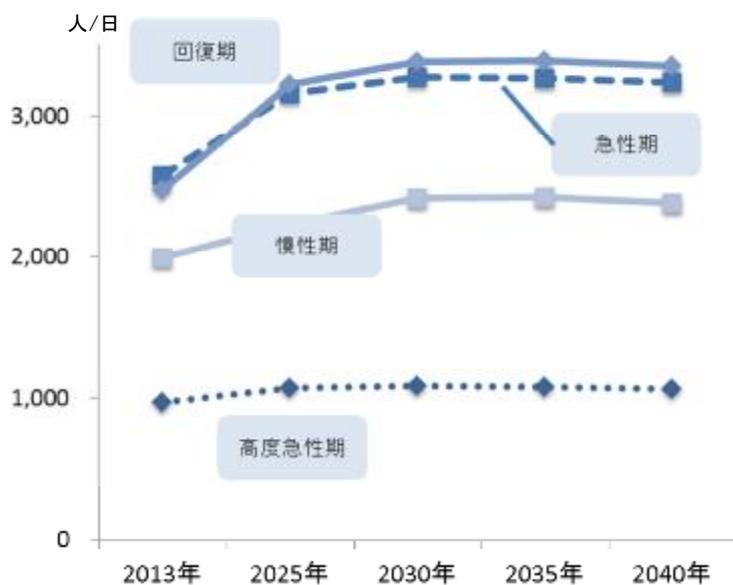
◆

（1）医療需要の見込み

○2025年の1日当たりの入院医療需要は、「高度急性期」は1,077人/日、「急性期」は3,154人/日、「回復期」は3,219人/日、「慢性期」は2,227人/日となる見込みです。

○いずれの病床機能も2030年ごろまで増加することが見込まれています。その後、減少に転じますが、2040年においても2025年以上の入院医療需要となることが予想されています。

図・表● 病床機能ごとの医療需要の見込み

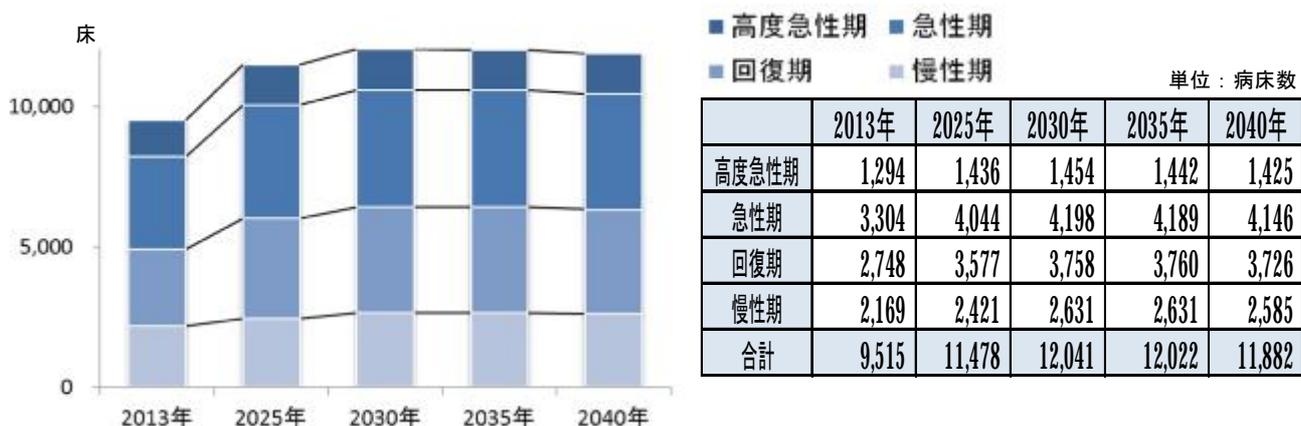


	2013年	2025年	2030年	2035年	2040年
高度急性期	970	1,077	1,090	1,081	1,069
急性期	2,577	3,154	3,275	3,267	3,234
回復期	2,473	3,219	3,382	3,384	3,354
慢性期	1,995	2,227	2,420	2,421	2,378
合計	8,015	9,677	10,167	10,153	10,035

(2) 必要病床数の見込み

○2025年の必要病床数は11,478床となり、2030年ごろまで増加することが見込まれています。その後、減少に転じますが、2040年においても2025年以上の必要病床数となることが予想されています。

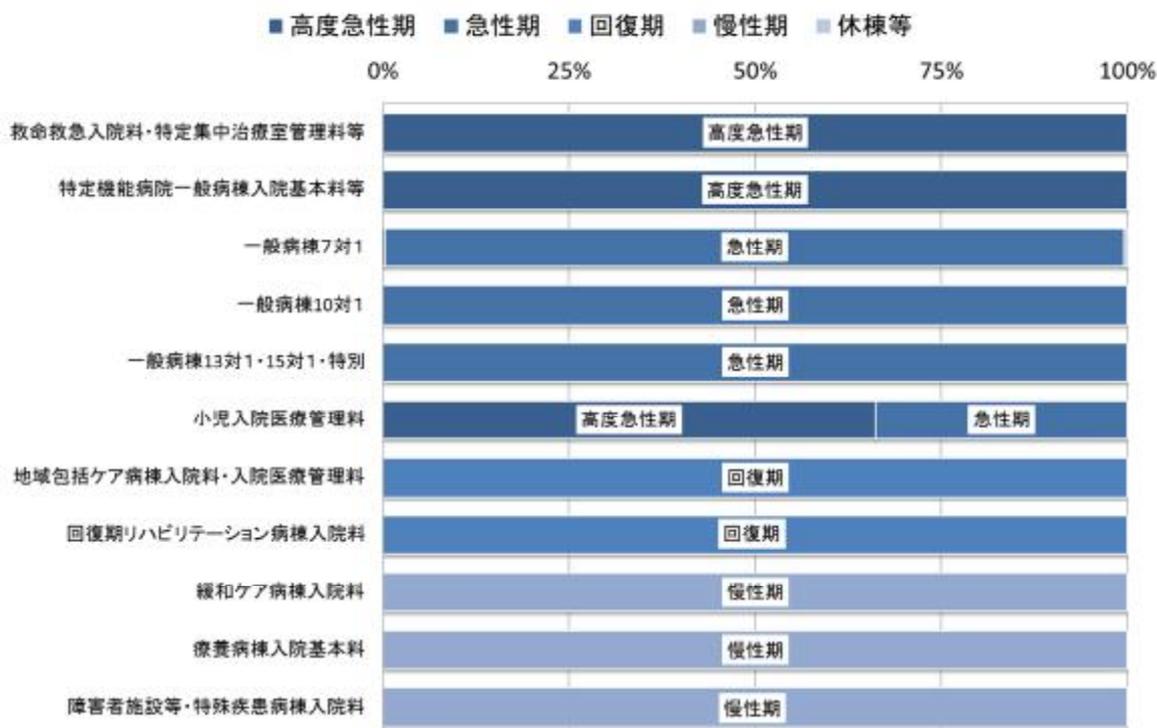
図・表● 病床機能ごとの必要病床数の見込み



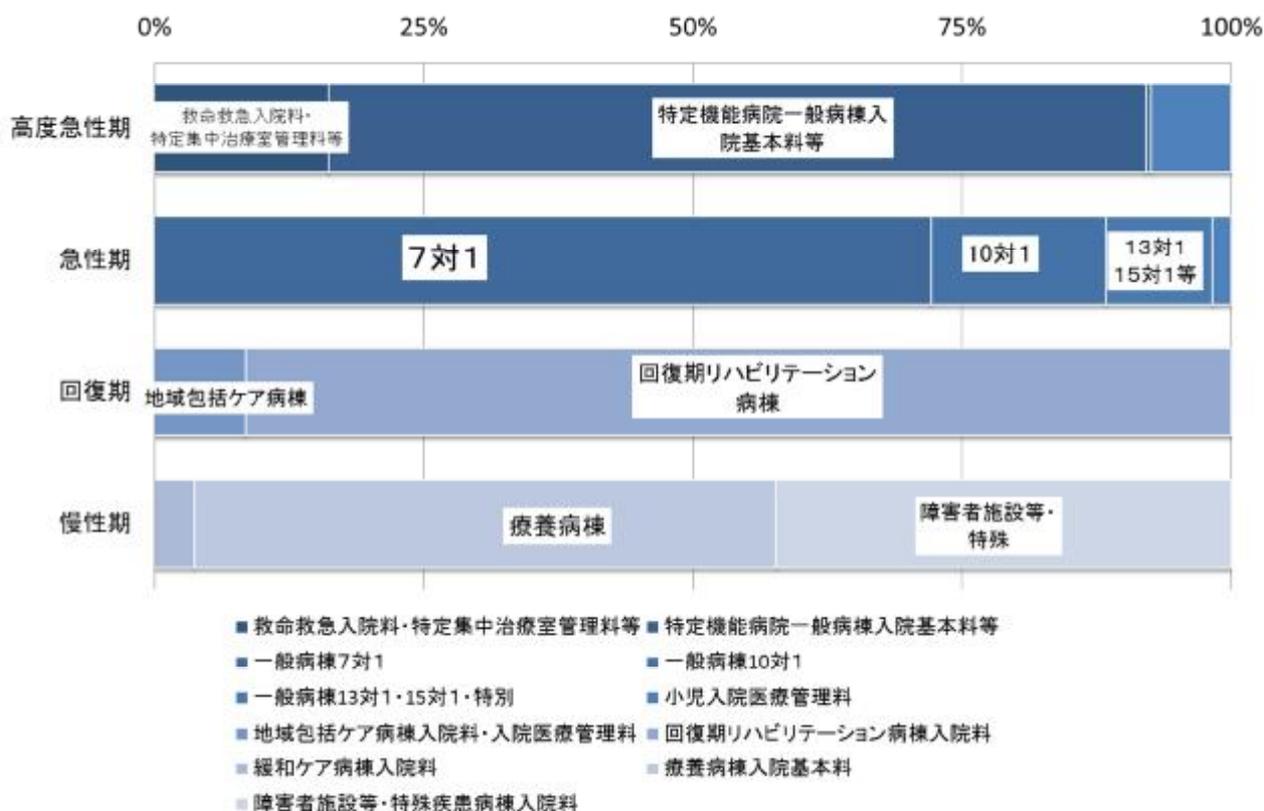
(3) 病床機能報告の結果

○平成28年度の病床機能報告では、61施設、9,003床が報告対象であり、報告の結果、高度急性期が1,775床、急性期が4,006床、回復期が966床、慢性期2,042床となっていました。また、医療機関の自主的な報告となっていますので、同じ入院基本料でも報告の仕方に差異が認められました。

図● 平成28年度病床機能報告(入院基本料ごと*の病床機能区分:割合)



図● 平成28年度病床機能報告(病床機能区分ごとの入院基本料※:割合)

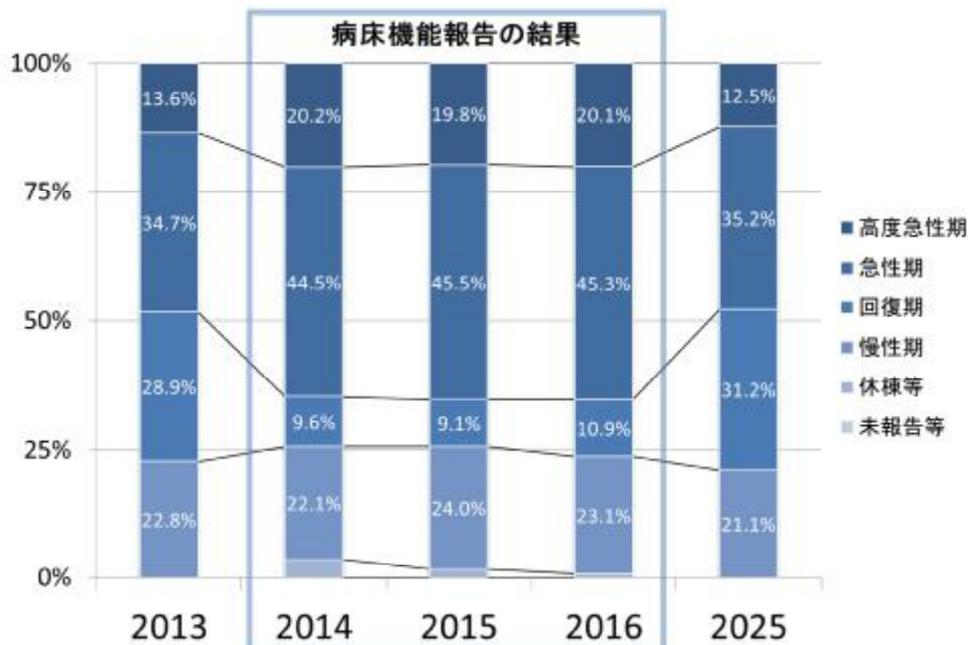


※入院基本料の区分は、(第4章「地域医療構想」P〇〇参照)

(4) 病床機能報告の推移と必要病床数

○2025年に必要な病床機能を確保していくためには、2025年必要病床数の機能区分ごとの割合(高度急性期 12.5%、急性期 35.2%、回復期 31.2%、慢性期 21.1%)に、病床機能報告の報告区分割合を近づけていく必要があります。

図● 病床機能報告と必要病床数の病床機能区分ごとの比較(割合)



4. 在宅医療

(主な現状と課題)

- ◆
- ◆

(1) 在宅医療等の需要の見込み

○在宅医療等の需要については、病床の医療需要と同じく、2030年頃をピークに、今後増加することが予想されています。



※2013年度の在宅医療等の需要は、訪問診療分と2013年度の介護老人保健施設の月当りの施設サービス利用者数(大阪府高齢者計画2012の検証より)の総計を参考値として掲載しています。

(2) 在宅医療資源の状況

○「主な在宅医療資源の状況」は表●のとおりです。

表● 主な在宅医療資源の状況

	訪問診療を実施している診療所	在宅療養支援診療所		再掲機能強化型		在宅療養支援病院		再掲機能強化型		在宅療養後方支援病院		
		(人口10万人対)										
豊中市	109	27.6	85	21.5	19	4.8	3	0.76	0	0	0	0
池田市	22	21.3	21	20.4	4	3.9	0	0	0	0	0	0
吹田市	56	15.3	57	15.6	10	2.7	1	0.27	0	0	2	0.55
箕面市	32	23.7	24	17.7	4	3.0	1	0.74	0	0	0	0
豊能町	6	29.7	3	14.9	1	5.0	0	0	0	0	0	0
能勢町	2	19.0	2	19.0	1	9.5	0	0	0	0	0	0
合計	227	22.0	192	18.6	39	3.8	5	0.49	0	0	2	0.19

	在宅療養支援歯科診療所		在宅患者調剤加算の届出薬局		訪問看護ステーション		再掲機能強化型		退院支援加算届出施設数	
	(人口10万人対)	(人口10万人対)	(人口10万人対)	(人口10万人対)	(人口10万人対)	(人口10万人対)	(人口10万人対)	(人口10万人対)	(人口10万人対)	(人口10万人対)
豊中市	44	11.1	73	18.5	43	10.9	0	0	14	3.5
池田市	9	8.7	9	8.7	12	11.6	1	0.97	3	2.9
吹田市	50	13.7	56	15.3	40	10.9	1	0.27	8	2.2
箕面市	15	11.1	14	10.3	12	8.9	0	0	3	2.2
豊能町	2	9.9	2	9.9	2	9.9	0	0	0	0
能勢町	0	0	1	9.5	0	0	0	0	0	0
合計	120	11.7	155	15.0	109	10.6	2	0.19	28	2.7

※「訪問診療を実施している診療所」は平成26年10月現在、その他については平成29年4月現在の状況
 ※「人口10万人対」算出に用いた人口は、大阪府総務部「大阪府の推計人口(平成26年10月1日現在)」

(3) 医療と介護の連携

【豊中市】

○・・・・・・・・・・・・・・・・。

【池田市】

○・・・・・・・・・・・・・・・・。

【吹田市】

○・・・・・・・・・・・・・・・・。

【箕面市】

○・・・・・・・・・・・・・・・・。

【豊能町】

○・・・・・・・・・・・・・・・・。

【能勢町】

○・・・・・・・・・・・・・・・・。

※以下の内容について、市町村ごとに現状と課題を記載予定
市町村主体の地域支援事業に位置付けられた事業のうち、特に医療に係る専門
的・技術的対応が必要なため、市町村の実情に応じた支援を必要とする以下
の事業についての取組みの現状と課題を中心に記述する。

ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築

オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携の取組みの現状と課題を
中心に記述する

第2項 豊能二次医療圏における今後の取り組み

(1) 地域医療構想の推進（病床の機能分化・連携の推進）

【計画中間年（2020年度）までの取り組み】

- ・
- ・

(2) 在宅医療の充実

【計画中間年（2020年度）までの取り組み】

- ・
- ・

(3) 地域における課題に対する対策

【がん】

【計画中間年（2020年度）までの取り組み】

- ・
- ・

【脳卒中等の脳血管疾患、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病】

【計画中間年（2020年度）までの取り組み】

- ・
- ・

【精神疾患】

【計画中間年（2020年度）までの取り組み】

- ・
- ・

【救急、災害】

【計画中間年（2020年度）までの取り組み】

- ・
- ・

【小児、周産期】

【計画中間年（2020年度）までの取り組み】

- ・
- ・

○計画中間年（2020年度）以降、計画最終年（2023年度）までの取り組みについては、計画中間年までの取り組みを踏まえ、検討し、実施していきます。